帝國大學は目下最高の學府として一通りの教育には十分なるも,學術の蘊奥を攻究して之が獨立を圖る機關としては決して完全と言ふ能はず,近來化學研究所設立の企あり,洵に結構なる事なるも,此のみにては尙ほ十分ならず,全學術の基礎なるべき物理,化學,博物學等の純正科學の研究が一層隆盛とならざる限りは,到底獨逸を凌駕するは勿論,之を雁行することすら不可能なるべし,我學界に於て特に貧弱なるは純正科學にして,此方面の學者洵に鮮し,研究所の不備と學者養成法の不完との爲めに,有爲の青年にして此方面に志す者至つて鮮し,文部當局も爰に見る所あり,工業教育殊に化學工業教育の擴張を圖り,大正四年度豫算中右に關する經費を計上したりしも不幸にして不成立となれり。

然れども工業教育の振興策又は工業の發展策の基礎は純正科學の研究に在るを以て,純正科學を度外したる工業は畢竟根なき花也,獨逸の工業の發達は,其工業が深遠なる科學の上に立脚せるが爲にして,我國に於ても工業の美花を得んとせば,先づ科學と稱する根を培はざるべからず,國家永遠の計は唯目先の事にては埒明くべからず,此等の事業は多額の經費を要するは勿論なるも,根底を有せざる應用科學又は斯る應用科學の立脚する文明は甚だ貧弱にして且つ危險なる文明也。

日本藥學會

日本藥學會第二日は,十八日午前九時より醫科大學藥學教室に開會,關東都督府技師慶松博士の蟻酸及び蓚酸製造法を始め,外數氏の演說ありたるが,本年は製藥工業に關する報告多く,時局の爲め內地製藥の開拓に着手せる傾向あるは喜ぶべし。

カフエイン 丹羽藥學博士は,靜岡縣に於て製造しつゝあるカフエインに就き述べて曰く,同縣にては初め茶に石灰を混じて外國に輸出し,肥料なりと稱し居たるが,其後巡査片山某其のカフエインの原料なる事を知るに至れり,カフエインは亢奮劑として茶の中に含むものにて,之を外國より輸入する時は一封十圓位の價格なるが,同縣の技師より交涉を受けて余が之を製造する事となり,今日にては其輸入は全く必要なきに至れり,靜岡縣は茶の產額非常に多く,輸出茶四百八十萬貫,內地消費の分二十四萬貫なれど,此の他に泥茶なるものあり,此の泥茶は塵芥等も混じて甚しく不潔のものなれば,之を篩にかけ,番茶として各地停車場にて旅客の茶に供し,其の粉末は即ちカフエインの原料として歐洲諸國に輸出し年額十二萬貫に達す。茶は一番二番三番と其の若芽を順次に摘み取り,最後に長く延びたる新葉は初秋の候に至

りて苅取り,來年新芽發生に妨げなき樣にす,之を苅落しと稱して茶畑に捨て置き,自然の醱酵に任せて肥料とするか,乾燥して燃料となす。然るに此の苅落しには多量のカフエイン含有すること判明したれば,之を以つて製造の原料と爲さんとしたれど,之を採取するものなし,若し專門の採取業者あらば縣下の產額約六百萬斤,一封度十圓と計算して四百十六萬五千圓の巨額に達すべく極めて有望なる事業也。

長井博士の成功

東京醫科大學藥學科の講堂に開會中の日本藥學會の講演席上で理,藥學博士長井長義氏は最近に於ける博士の新藥合成の結果を報告した。

局部麻睡劑として齒科,眼科其他の小手術になくてならぬコカインにした處が,又は高峰博士の發明に懸る止血劑アドレナリンにした處が,又はモルヒネにした處が何れも皆植物又は動物の體中に含まるゝものを取り出したに過ぎない,新藥の合成ではない,然るに長井博士の研究した新藥の合成は天然に存在するものから取り出すのでなくて新に「合成化合さして新しい藥を製造すると云ふ方面の研究である。

それで先づ博士は牛の副腎中から採るアドレナリンと同一の効能のある化合物が化學物が化學實驗室の試驗管の中で出來ない者であらうかと色々苦心して遂に夫を作つた。最初はアドレナリンと同一の成分をするものを作らうと思つたのであるが必ずしも同一のものを合成しなくとも同一の効能のある藥を合成すれば可いと考へて,エナエモジンと云ふものを製造した,これは醫學博士三浦謹之助氏の證明によつて,アドレナリンと同一の効能があることが確められたのである。

此新藥はアドレナリンの樣な高價なものではなく,其價格の百分の一位で出來るのである,又コカインと同一の効能のある「アロカイン」と云ふ新藥も同一の目的で製造された,これも三浦博士がコカインと比較研究して確に同一の効能があると云ふことを明かにした。

又,一成功

眼科で瞳孔散大藥として用ひらるゝ硫酸アトロピンは內科に於けるモルヒネなどと同じく眼科の主要藥品である,夫れを東京衛生試驗所で研究して內地の原料で製造し得るに至つた,主任技師石津藥學博士と柳澤囑託との功勞である,製造法に就いて聞くと